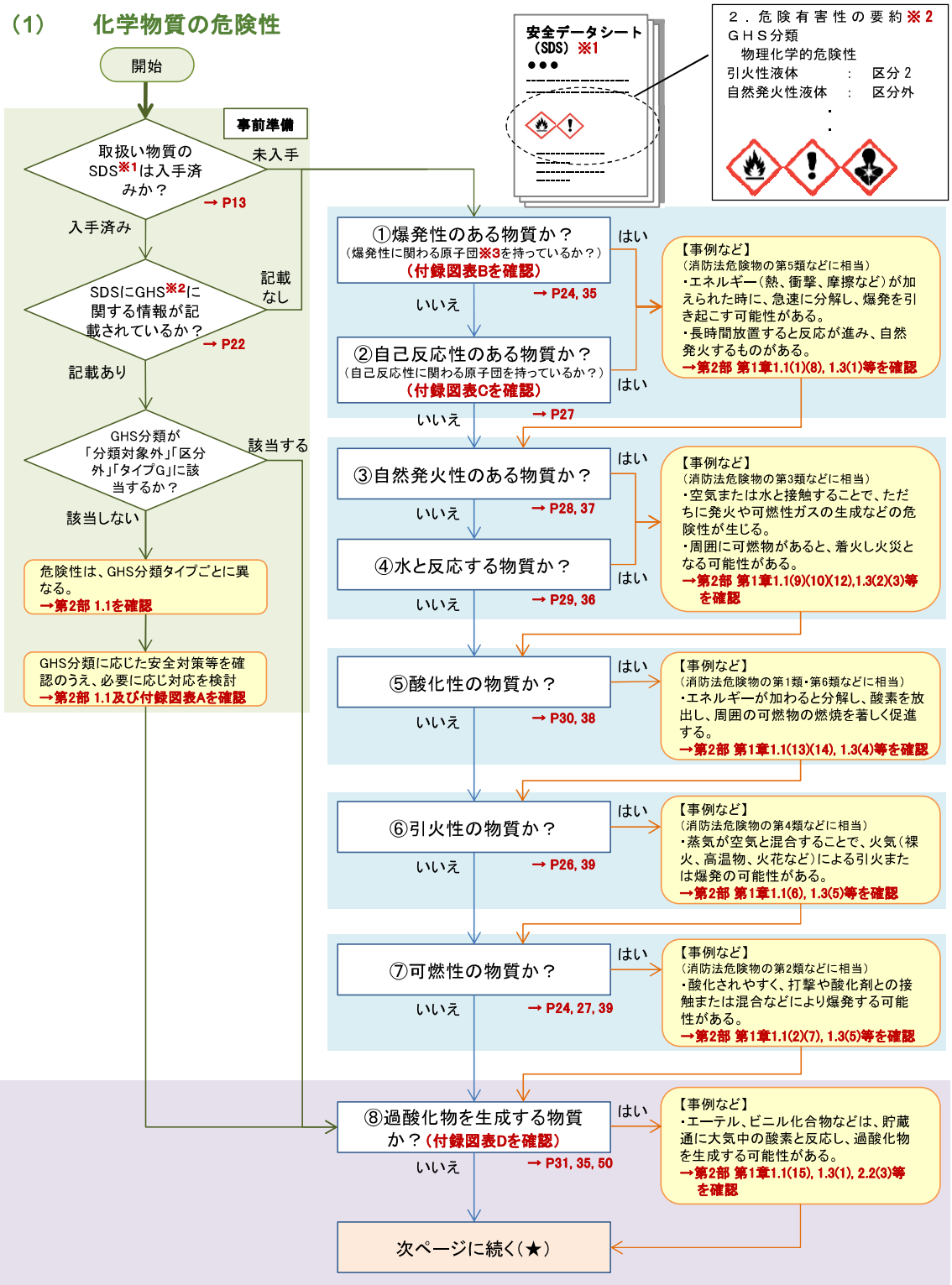
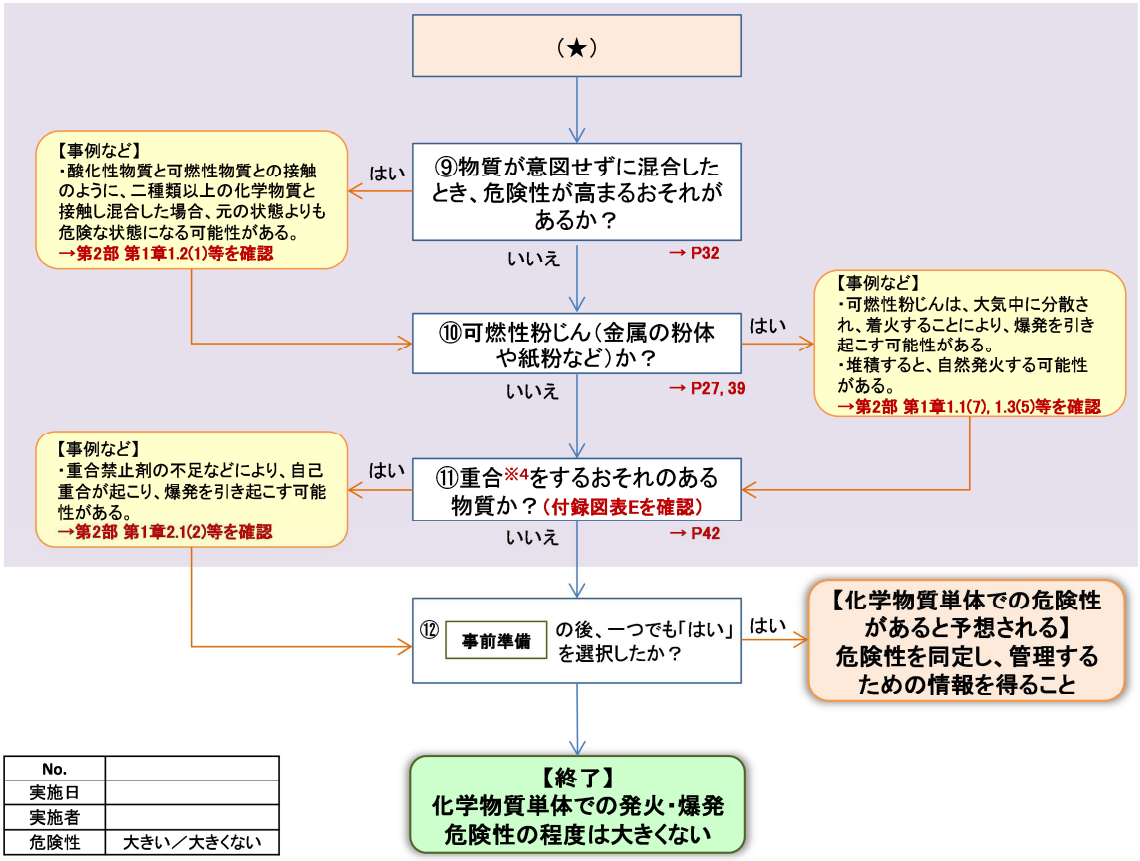
使い方については、入門ガイドブック（概要版）、解説については入門ガイドブック全体版を参照ください。

スクリーニング支援ツール（チェックフロー）

（1）　化学物質の危険性



※1　化学物質の名称や物理化学的性質、危険性、有害性等を記載した資料
※2　世界的に統一されたルールに従って、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報が一目でわかるよう、ラベルで表示したり、SDS を提供したりするシステムのこと
※3　化合物の分子内に含まれるある特定の原子の一団（例：不飽和の C-C 結合、C=C、C≡C 等）



No.	
実施日	
実施者	
危険性	大きい／大きくない

(1) まず取扱い化学物質の SDS の入手を行います。SDS が入手できない場合は【開始】から始めて質問に答えていきましょう。

(2) SDS が入手できた場合は GHS 記載の有無を確認します。GHS の記載がない場合は【開始】から始めて質問に答えていきましょう。

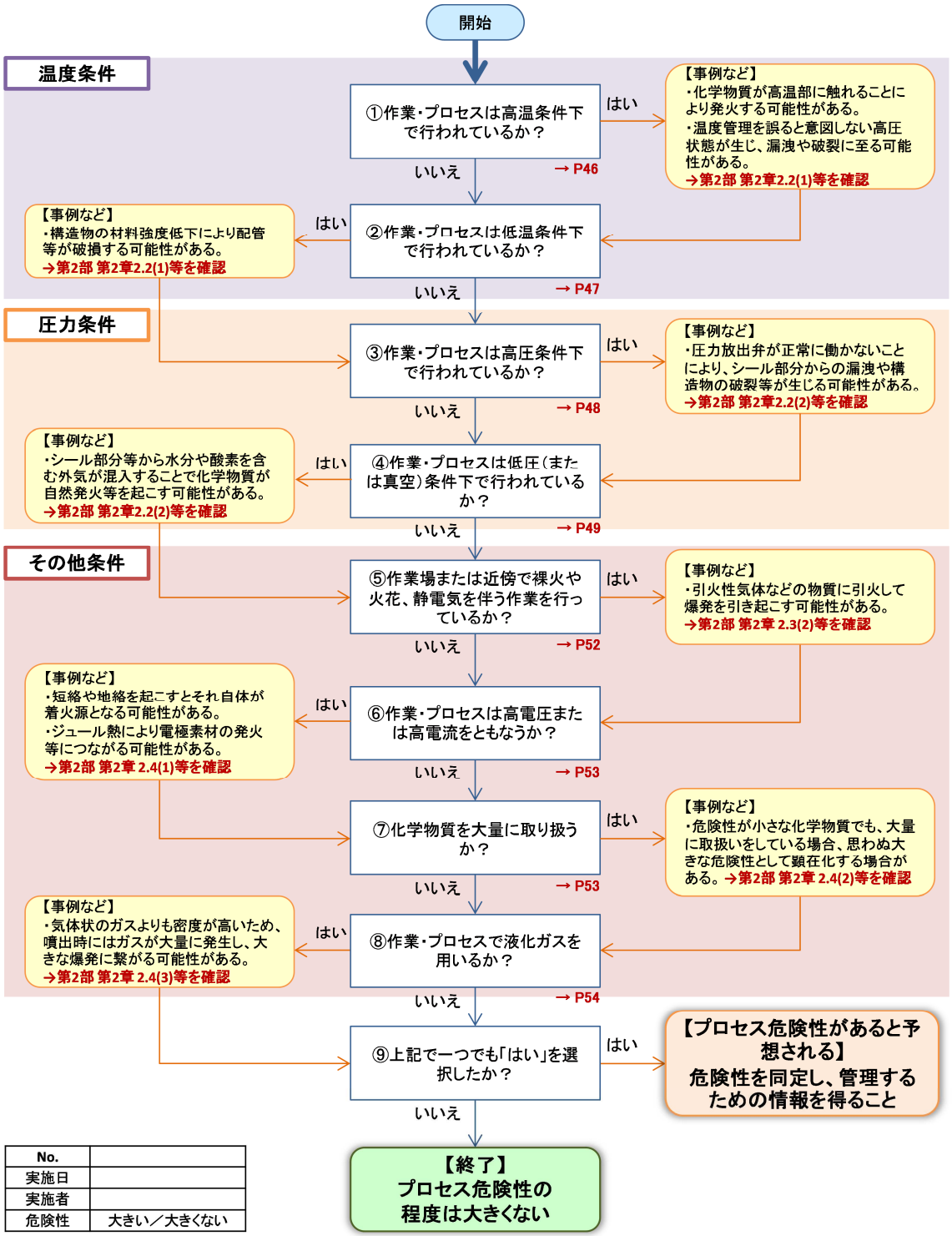
(3) GHS 分類が「分類対象外」「区分外」「タイプ G」に該当するか確認します。該当する場合は⑧へ進みましょう。該当しない場合は第 2 章の 2.1 節及び付録図表 A 参照し、GHS 分類に応じた安全対策等を確認のうえ、必要に応じ対応を検討し、⑧へ進み、質問に答えていきましょう。

(4) 「はい」を答えた場合は、チェックフローの【事例など】に記載されている分類番号を確認し、【ガイドブック第 2 部 解説編】の該当箇所を確認しましょう。

SDS の交付義務の対象物質（640 物質）は、明らかになっている危険性・有害性に基づき定められたものであり、対象となっていない化学物質に危険性・有害性がないことが保証されるものではありません。対象物質に当たらない場合でも、危険又は健康障害の生ずるおそれのあるものについては、リスクアセスメントを行うことが努力義務となります。

※4 モノマー（単量体）やポリマー（重合体）を反応させて、目的のポリマーを合成する化学反応

（2）　プロセス・作業の危険性

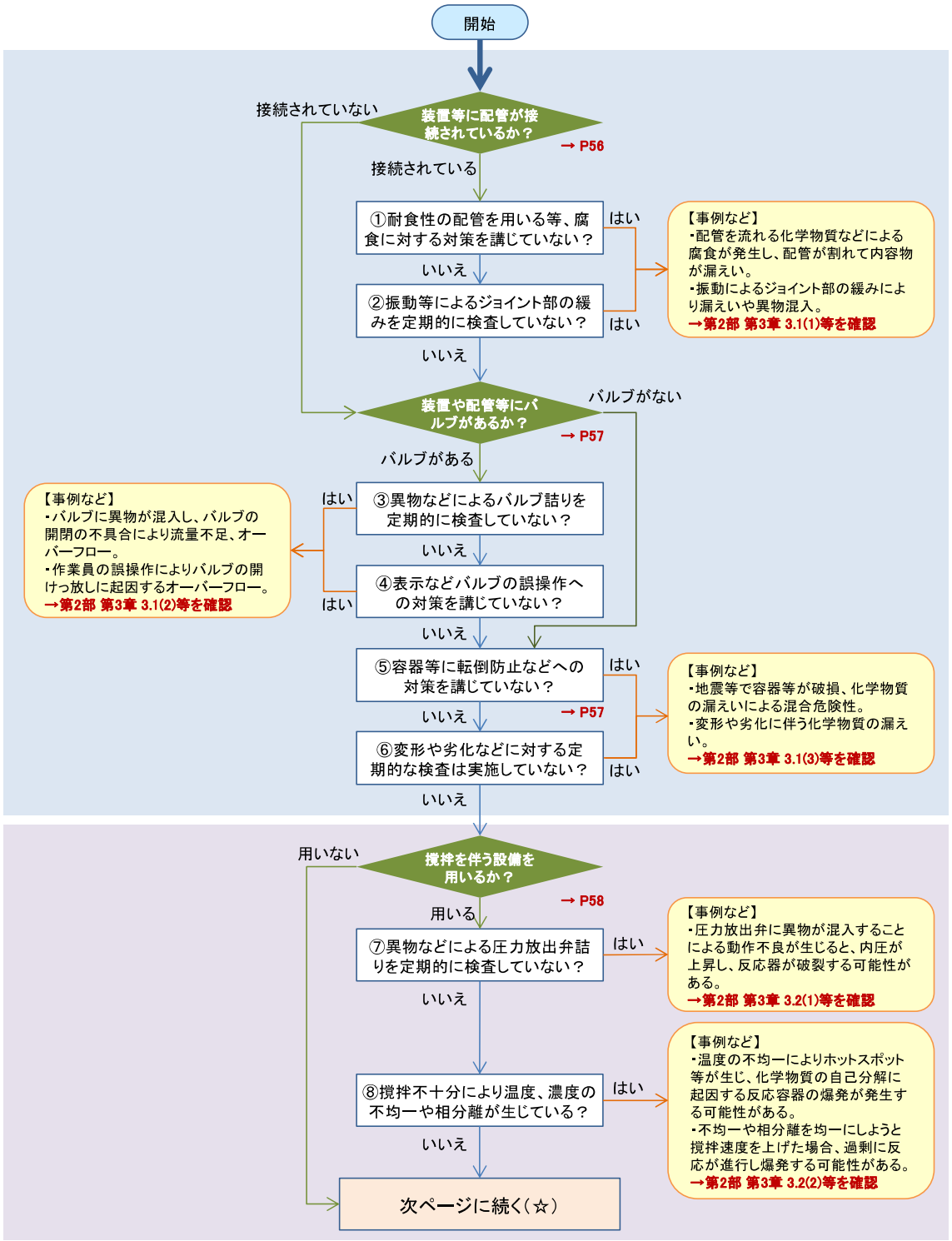


No.	
実施日	
実施者	
危険性	大きい／大きくない

(1)　【開始】から始めて質問に答えていきましょう。

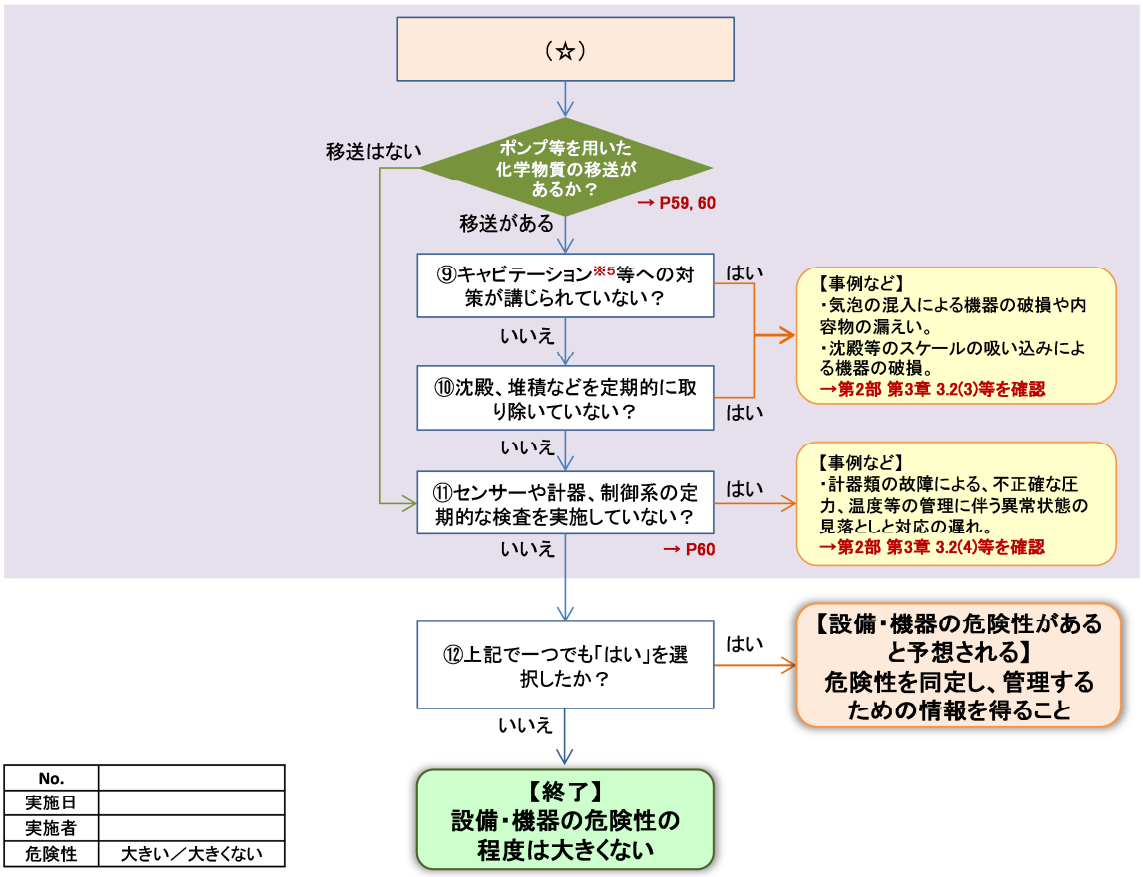
(2)　「はい」を答えた場合は、チェックフローの【事例など】に記載されている分類番号を確認し、【ガイドブック　第２部　解説編】の該当箇所を確認しましょう。

（3）　設備・機器の危険性



(1)　【開始】から始めて質問に答えていきましょう。

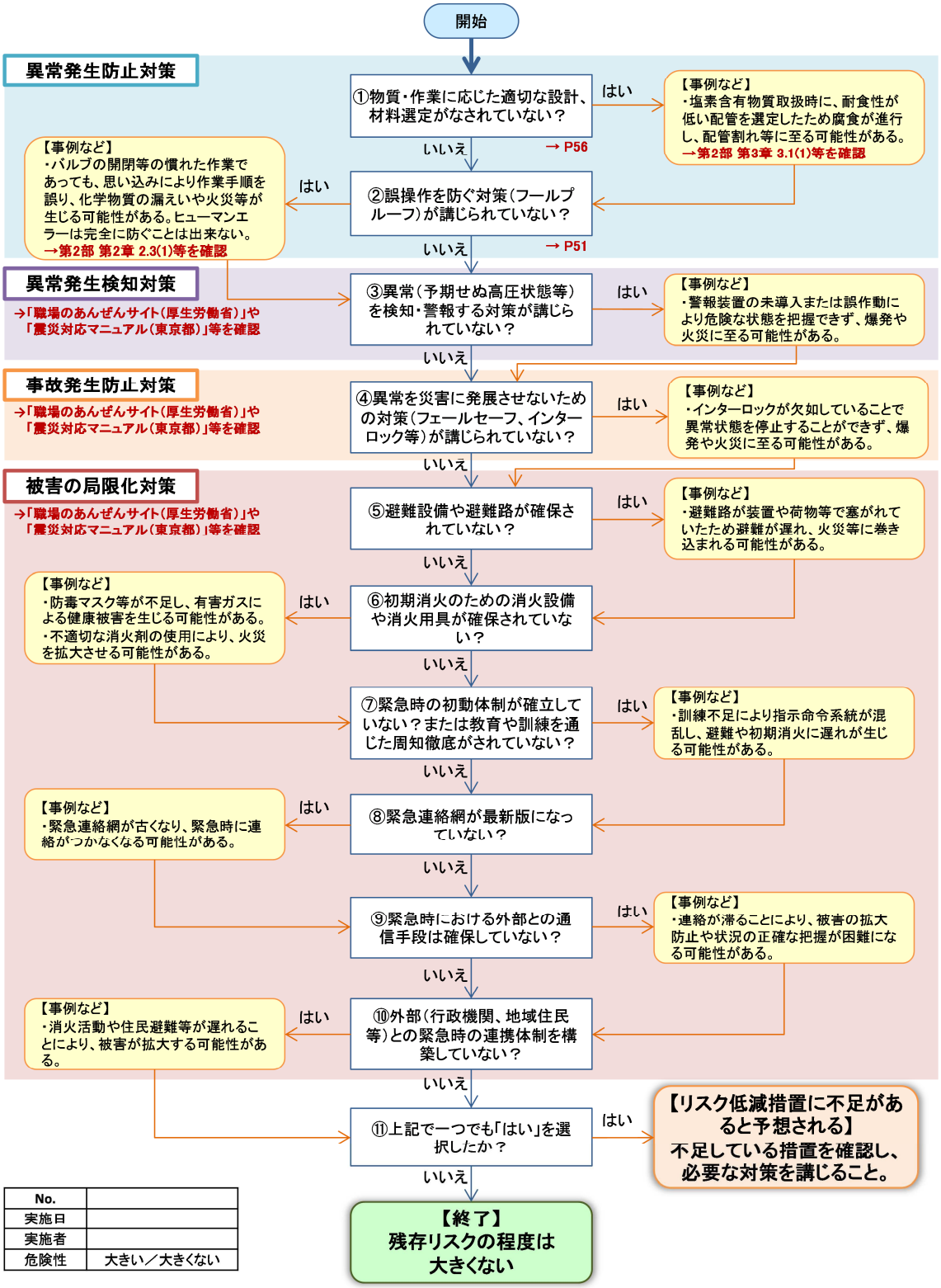
(2)　「はい」を答えた場合は、チェックフローの【事例など】に記載されている分類番号を確認し、【ガイドブック　第２部　解説編】の該当箇所を確認しましょう。



No.	
実施日	
実施者	
危険性	大きい／大きくない

※5 溶存ガスが溶け出すだけでなく、軽質分の蒸発、またはその液体自身の蒸発によりポンプの中で泡が発生して機能しなくなる、機能が低下すること

（4）　リスク低減措置の導入状況



No.	
実施日	
実施者	
危険性	大きい／大きくない

【開始】から始めて質問に答えていきましょう。③以降は東京都環境局「震災対応マニュアル」などを参考にリスク低減対策を検討しましょう。

スクリーニング支援ツール（結果シート）

実施者		実施日		取り扱い物質（CAS番号）		No.	
作業等の概要							

	危険性の確認													
質問番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	備考	結果
化学物質の危険性														（危険性） 大きい／ 大きくない
	GHS分類に基づく物理化学的危険性に該当する場合⇒													
プロセス・作業の危険性														（危険性） 大きい／ 大きくない
設備・機器の危険性														（危険性） 大きい／ 大きくない

	リスク低減措置の導入状況の確認												
質問番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	備考	結果
リスク低減措置の導入状況													（災害の可能性） 高い／ 高くない

更なる対策・今後の方針等

リスク
リスクの程度が大きい／ リスクの程度は大きくない